

I 研究主題名：

主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

II 研究主題設定の理由

これまでの外国語活動・外国語科の授業を通して、本校の児童は、積極的に英語表現を聞いたり、基本的な表現を使って質問したり答えたりすることができるようになってきた。その一方で、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童やコミュニケーションをとること自体を楽しむことができていない児童がいる。そこで、外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 学年・領域

高学年では「One World Smiles」、中学年では「Let's Try」、各出版社から出されている年間指導計画を基に指導を進める。低学年では、市から提供されている年間計画を基に指導を進める。

低学年の指導内容

- ・あいさつ、自己紹介
- ・天気、曜日、数
- ・果物や野菜
- ・体の部位
- ・気持ち
- ・色や形
- ・動物や昆虫
- ・行事

中学年 Let's Try!1,2



高学年 One World Smiles5,6



V 各学年の取り組み

1 1学年の取り組み

LESSON「曜日の言い方を知ろう(10月)」では、歌に合わせて英語で曜日を言ったり、ジェスチャーをしたりしながら楽しく練習を行った。その後、カルタやミッシングゲームを通して、インプットとアウトプットを繰り返して曜日の表現に慣れ親しんだ。(写真1)

また、LESSON「いろいろな国のクリスマスについて知ろう(12月)」では、写真や映像を見て、様々な国のクリスマスの様子や文化について知ることができた。(写真2)



写真1 「曜日の言い方にふれよう」



写真2 「クリスマスについて知ろう」

2 2学年の取り組み (Topic: 「What animal do you like? 」)

“What animal do you like?” ”I like ~.”の表現を用いて、友達と好きな動物を伝え合う活動をゴールに設定した。ゲームや歌を通して、動物の名前に楽しく慣れ親しんだ。また、動物の英語表現をインプットした後、教師と児童、児童と児童で “What animal do you like?” ”I like ~.”とアウトプットを繰り返し、表現の定着を図った。「動物」「家族」の英語表現について、英語の正しいリズムやアクセントに気づき、積極的に話そうとする姿が見られた。“What animal do you like?”の質問にも、ほとんどの児童が英語で答えられるようになった。



写真1 児童同士のやり取り①



写真2 児童同士のやり取り②

3 3学年の取り組み (Let's Try 1 Unit 7 「This is for you. 」)

「Unit 7 This is for you.」では、欲しいものを尋ねたり答えたり、相手に伝わるように工夫しながら自分の作品を紹介したりする活動に取り組んだ。クリスマスカードを作ることを単元のゴールに設定し、形や色 (Unit5 既習) を”What do you want?” “○○, please.”の表現を使ってたずねたり、欲しいものを答えたりして活動できるように授業を進めた。タブレット端末を活用し、先生や友達が示したお手本の作品をペアで作成する活動では、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。単元終末の活動では、クリスマスカードを作るための材料集めをする場面で、児童は”It's ○○.” “This is for you!” と、相手に伝わるようにやり取りしようと活動していた。



写真1 ペアトークの様子①



写真2 ペアトークの様子②

4 4学年の取り組み (Let's try2 Unit7 「What do you want? ほしいものは何かな?」)

Unit 7 「What do you want? ほしいものは何かな?」では、お互いの欲しいものについて尋ね合う学習において、相手に伝わるように工夫して答えたり、欲しいものを聞いたりする活動に取り組んだ。本単元のように、ゴールを「先生や友達のためにパフェをつくらう」「〇〇さんがよるこんでくれるピザをつくらう」と明確にすることで、児童が相手意識や目的意識をもって活動できるようになってきた(写真1)。単元の導入では、「Do you like 〇〇?」の表現を使った尋ねたり、「I like 〇〇./I don't like 〇〇.」と答えたりして練習した。また、デジタル教科書のチャンツを活用して、「What do you want?」「I want 〇〇, please.」「How many?」「(数), please.」のフレーズを、各学級のオリジナルチャンツに更新して、繰り返して定着を図った。Final Activity では、友達同士で既習表現を使って、お互いの欲しいものを尋ね合い、伝えたことをお互いに確認しながらやり取りする様子が見られた(写真2)。



5 5学年の取り組み (Lesson 5 「I can run fast. みんなのできることを集めよう」)

自分のできること (I can ~.) を伝え合う活動で、「友達同士新たな一面を発見しよう」という単元のゴールを設定した。デジタル教材の Let's Watch の動画やそれと連動した Say It Together を活用し、帯活動で毎時間繰り返しインプット&アウトプットすることで表現の定着を図った。Final Activity では、新たな一面をお互いに発見するという目的のために、話し手はまだ相手が知らない意外なことを伝えること、聞き手は相手のことをもっと知るということに意識を向けて、考えながら活動することができた。また、単元の最後に友達のことを紹介する時間を設定し、「He/She can ~.He/She is great.」など友達のできることと自分の気持ちを伝え合うことで、他者理解や互いに認め合う土台作りにもつなげることができた(写真1)。



6 6学年の取り組み

(1) 単元名 What do you want to be? 将来の夢 (教育出版『One World Smiles 6』Lesson 8)

(2) 単元の目標

- ① 様々な職業名を、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- ② 将来就きたい職業の表し方を知って、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- ③ 風船シートをつくって、将来の夢を発表することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ④ 自分の夢を気持ちを込めて伝えようとしたり、友達の夢を聞いて応援しようとしたりする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元の評価規準 ◎中心領域「話すこと(発表)」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識>さまざまな職業の語句や、将来の夢やその理由を表す表現 (I want to be【職業】., I like ..., I want to【動詞】.) について理解している。</p> <p><技能>さまざまな職業の語句や、将来の夢やその理由を表す表現 (I want to be【職業】., I like ..., I want to【動詞】.) について、発表する技能を身に付けている。</p>	<p>自分の将来の夢を伝えるために、就きたい職業やその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、発表している。</p>	<p>自分の将来の夢を伝えるために、就きたい職業やその理由について、これまでの学習の中で気づいたことを活かしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、発表しようとしている。</p>

(4) 単元の指導計画・評価計画 (全7時間)

時間	ねらい	◇めあて・学習活動	評価規準			評価方法
			知技	思判表	主	
1	将来自分が就きたい職業の言い方を知り、聞いたり言ったりする。	◇なりたい職業を尋ね合おう。 ・職業の言い方を知る。	○			行動観察
2	さまざまな職業の語句や将来の夢やその理由を表す表現を知る。	◇なりたい職業とその理由を伝えよう。 ・その職業に関連して、自分の好きなことやできることなど理由を表す表現を知る。	○			行動観察
3	将来の夢やその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝える。	◇その職業に就いて、どんなことをしたいか伝え合おう。 ・どんなことをしたいのか、自分の考えを深める。	○	○		行動観察 振り返りシート
4	将来の夢やその理由について、これまでの学習の中で気づいたことを生かしながら伝える。	◇理由についてわかりやすく伝え合おう。 ・発表場面を動画で確認したり、友達からアドバイスをもらったりして、自分の発表に生かす。		◎	◎	行動観察 振り返りシート
5	自分が就きたい職業とその理由について発表する。	◇友達と将来の夢について伝え合おう。 ・将来就きたい職業とその理由について伝える。	◎	◎	◎	行動観察 振り返りシート
6	自分が就きたい職業とその理由について、話したことを書き写す。	◇話したことをシートに書こう。 ・話した内容を4線のシートに書く。	◎	◎	◎	行動観察 ワークシート

7	就きたい職業やその理由について、読んで理解している。	◇シートを読んで、友達に応援メッセージを書こう。 ・シートを読んで、互いに励ます応援メッセージを書く。	○	◎	◎	行動観察 ワークシート
---	----------------------------	--	---	---	---	----------------

(5) 指導の実際

第4時では、将来の夢について、なぜその職業に就きたいのか、その職業に就いたらどんなことをしたいのか、相手にわかりやすく伝える工夫について学習した。自分の考えや気持ちを伝えるには、これまでに学習した表現が使えないか、どのように言い換えたら伝えることができるかを学級全体で共有した。さらに、自分の発表場面を友達に動画で撮影してもらい、相手に伝わるような内容や話し方になっているか、自分自身で確認した(写真1)。自分で気づいたことや改善したいところを意識して、次のペアトークに生かした。さらにそのペアトークのあと、相手の話の内容や話し方について、お互いに良いところやアドバイスを伝え合った。ここで共有したことをまた次のペアトークに生かすことで、自分の考えを深めたり、表現内容を広げたりすることができた(写真2)。



写真1 発表場面の動画撮影



写真2 ペアトークの様子

第5時の Final Activity では、これまでの学習を生かして将来の夢について発表する活動を行った（写真3）。お互いに”Nice dream!” “Good luck!”など、声をかけ合いながら取り組むことができた。さらに、第6時で自分の夢についてシートに書き、第7時ではシートを読んで、お互いに応援メッセージを書いて友達に贈る活動を設定した（写真4）。ここでは、シートから読み取ったことをもとに、相手のいいところや相手への励ましの言葉をカードに書いて渡すことができた。



写真3 Final Activity



写真4 応援メッセージを書く活動

VI 成果と課題

1 成果

- (1) 名前の言い方、天気の見方、曜日や気分の言い方など、身近な事柄に関する英語表現を繰り返し聞いたり言ったりすることで、積極的に表現しようとする姿が見られた。
- (2) ゲームやチャンツ、ペア学習を通して、基本的な表現に慣れ親しむことができた。目的意識を持つことで、主体的にコミュニケーションをとって活動しようとする児童が増えた。
- (3) 身に付けた基本的な英語表現や既習表現を使って、聞いたり話したりすることができる児童が増えた。単元を通して、相手意識や目的意識をもたせ、自分の考えを広げたり深めたりすることで、主体的に自分の考えや気持ちを伝えようとする児童が増えてきた。

2 課題（改善策）

- (1) 英語を正確に言おうとすることに意識が向いてコミュニケーション自体を楽しむことができず、英語を使って話すことに苦手意識をもつ児童がいる。低学年においては、学年や学級に応じた学習活動の工夫が必要である。中学年、高学年では、互いに伝え合うことの楽しさを実感できるよう、相手意識や目的意識を高める学習内容や指導方法を工夫する。
- (2) 自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童がいる。取り上げている話題に対してどのように考えるとよいか、Small Talk や Let's Talk などでのやり取りを通して、思考の仕方を指導する。また、外国語活動・外国語科の学習でのやり取りを通して、コミュニケーションを図るときに大切なことや楽しさについて気づかせていきたい。